

2019年度三木町×香川大学 健やかあすなろプロジェクト報告書

香川大学医学部衛生学 鈴木裕美、宮武伸行

香川大学副学長 徳田雅明

1) 実施概要

2013年度から2017年度までの5年間、COC（Center of Community、地（知）の拠点整備事業）で三木町、松原病院と連携しながら香川大学、香川大学医学部と共同で展開する事業として、「健やかあすなろプロジェクト～児童の糖尿・肥満撲滅プラン」を提案、実施してきました。

2018年度からは新たな5年計画、「新健やかあすなろプロジェクト」として、A：三木町小児生活習慣病検診結果の有効活用と地域への還元、B：三木町子育て支援事業 <子育てプログラムをすべての親に～子育ての予防接種を～>を2つの柱に展開しています。

2) 2019年度実施報告

A：三木町小児生活習慣病健診結果の有効活用と地域への還元

2018年度に三木中学校1987年度からの身体測定、血液検査値及びアンケート、2009年度からの三木町内小学校の身体測定、血液検査及びアンケートのデータベース化が完成しました。

2019年度は三木町小児生活習慣病予防対策委員会、三木町倫理委員会でデータの有効活用と三木町民への還元について検討しました。

B：三木町子育て支援事業 <子育てプログラムをすべての親に～子育ての予防接種を～>

三木町の未就学児をもつ親だけでなく、小学生や中学生の保護者を対象に、子育ての方法を学ぶ機会を繰り返し提供することで、子どもが安心して育ち、能力を十分発揮できる子どもの養育環境を整えることを目的に、主に以下5項目について実施しました。

1. 単発の子育て講演（2019年4月～）

トリプルP前向き子育てプログラムをベースにした子育て講座を実施しました。子どもとよい親子関係を築く具体的な方法や前向きな言葉かけやルールの作り方、守らせ方を参加者と一緒に考える学習を行いました。講座の終了後に香川大学医学部や三木町防災センターで行う子育てプログラムの周知、子育てリーフレットの子育て講座受講記録欄に押印した上で配布を行いました。

- ① 4月27日 白山幼稚園「明日が変わる子育て講座」

参加者 20 名、講師は鈴木裕美

② 6月1日 氷上保育所「明日が変わる子育て講座」

参加者 50 名、講師は鈴木裕美

③ 12月7日 白山小学校「前向き子育て」

参加者 30 名、講師は小鹿えり（新たに養成されたファシリテーター）

2. 香川大学医学部および三木町防災センターでの連続トリプル P 子育て講座（添付1）

① 2019年6月～ 5回連続講座+3回電話相談 9名（香川大学医学部）

② 2019年10月～ 5回連続講座+3回電話相談 11名（香川大学医学部）

③ 2019年12月14日 フォローアップセミナー 14名（三木町防災センター）

④ 2020年1月～ 5回連続講座+3回電話相談 8名（三木町防災センター）

実施者：鈴木、神田、新しく養成されたファシリテーター4名

2か月間かけてグループトリプル P（前向き子育てプログラムレベル4一般児童用）を実施しました。実施前後にはアンケートを行い、プログラム効果の評価を行いました。どの参加者も精神健康度、夫婦関係、子育てスタイル、子どもの問題行動において改善が認められました。

また、過去に子育てプログラムを受講した方向けにフォローアップセミナーを実施し、子育てプログラムの復習を行い、現在の子育てについて話し合いました。新たな課題に対しては、学習したプログラムの技術を使ってどのように対応できるか話し合いました。

3. トリプル P ファシリテーター育成（添付2）

トリプル P 前向き子育てプログラムのファシリテーター養成講座を、石川恵子と高橋淑子の2名が受講しました。受講後の6月、10月、1月講座ではファシリテーターとしてトレーニングを実施し、最初は講座1回分の一部を担当していましたが、最後には2時間全部を担当することができるようになりました。また、小グループでの話し合いでは上手にファシリテーションを行い、ロールプレイも適切な指導や評価を実施できるようになりました。

4. 子育てビデオや子育てプログラムのテキスト貸し出し

香川大学医学部 20名、三木町防災センター 8名

子育てプログラムで使用している「すべての親のためのサバイバルガイド」というビデオの貸し出しを行いました。また、今年度は「トリプル P～前向き子育ての17の技術～」というテキストを12冊購入したので、ビデオと共に貸し出しを行いました。

5. 子育てリーフレットの増版、配布（添付3）

昨年度作成した子育てリーフレットを 6,000 部増版し健診や母子手帳配布時に配布しました。また、子育て講座の受講時には、子育てプログラム受講記録欄に押印して配布しました。特徴は、①母子手帳に永久保存用に収納できるサイズ、②子育てプログラムの受講記録欄があり、予防接種のように受講するとスタンプを押せる、③見開きページを開けると、イラストでわかりやすく子育てのアドバイスが描かれているなどです。

6. 不登校児のためのフリースペース、保護者と子育て支援者のためのフリースペース フリースペース開設のための準備として以下（時系列で表記）を行いました。

6月12日（水）元三木中 SC、病院 SC から情報収集（添付4）

7月4日（木）三木町教育委員会、大学、小中校長、教育相談担当との協議（添付5）

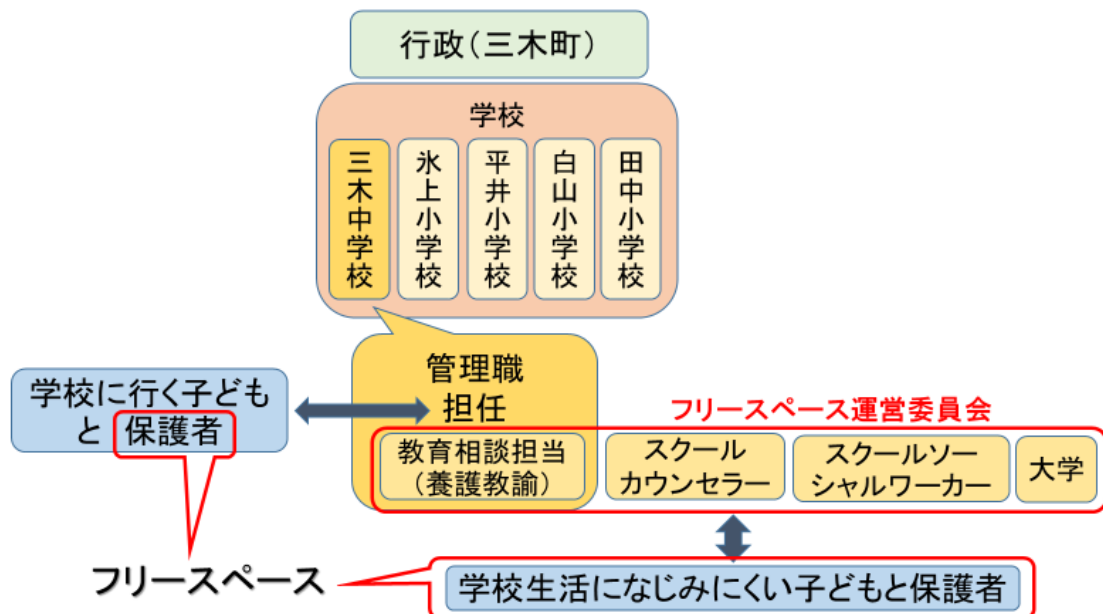
8月17日（土）三木町教育委員会、大学、不登校児保護者との懇談（添付6）

8月29日（木）三木中で運営委員会立ち上げの相談（添付7）

9月5日（木）第1回運営委員会会議（添付8）

9月6日（金）校長会で正式に運営委員会について説明・承認

10月1日（火）より毎週火曜日 13:00-15:00 に白山文化センターにて開始（添付9）



行政、教育関係者、当事者などから情報収集および協議を行い、下記について合意しました。

1. 教育委員会×各学校管理職

フリースペースへの参加を出席日数にカウントする、公用車を使ってスクールソーシャルワーカー（SSW）が子どもたちを迎えに行く、ぼぼら（三木中内の適

応教室) の代わりになる学外の施設および人材確保などのハード面を整えていくことを担当します。

2. 香川大学×教育現場担当 (フリースペース運営委員会)
フリースペースを開設し、保護者や子どもに居場所とサポートを提供するなどのソフト面を担当します。
3. 運営委員会には、香川大学 (鈴木)、三木中の教育相談担当 (大西)、4 小学校の養護教諭 (佐々木、小山、安西、武久)、スクールカウンセラー (SC) (坂東、藤原)、SSW (木村、稲藪)、ポポラ指導員 (木下)、計 11 名からなります。
4. フリースペース運営は、主に鈴木が行うが、対象児童やその保護者への周知は担当の養護教諭や SC、SSW が行い、適宜フリースペースを訪問して情報共有に努めます。

10 月～2 月まで (18 回) の参加者 (のべ数) は、児童が 39 名、保護者 17 名、見学者 4 名 (地域の方、運営委員ではない SSW やカウンセラー)、スタッフ (運営委員や行政) 63 名でした。

トリプルP 前向き子育て講座 ～すべてのお父さん、お母さんのために～

「前向き子育てプログラム」 グループワーク 参加者募集



プログラム体験者の感想
は裏面にあります！！

「子育てってたいへん・・・」
「こんな悩みは私だけ？」

- ★ 誰もが持っている子育ての悩み
- ★ ちょっとした方法や技術を学ぶことで、子どもとの関わりを良い方向に変えることができます

『トリプルP：前向き子育てプログラム』はオーストラリアで開発され、世界 25 カ国以上で実施されている親向けの参加体験型の学習プログラムです。

ビデオを見たり、参加者同士でわいわい楽しく話しながら、それぞれの親子に合わせた具体的で効果的な言葉かけの練習をします。

子どもが前向きに、自信をもって、たくましく生きていく姿勢は、よい親子関係と効果のあるしつけから育まれます。子供の未来を変える方法を一緒に学びませんか？

10/1～11/19 火曜日 10：00～12：00
5回講座＋3回電話相談を行います！
(詳細は裏面をご覧ください)

- 対象： 子育て中の保護者（祖父母の方、歓迎します）
- 講師： 神田 かなえ、鈴木 裕美（トリプルP認定ファシリテーター）
- 参加費： 5,000円
- 定員： 10名
- 場所： 香川大学医学部研究棟7階（病院の北側）
- 駐車場： 香川大学附属病院の駐車券に無料スタンプ押します
- 託児： なし（大学近くの一時的預かり保育を紹介します）

◆お申込み/お問い合わせ◆

NPO 法人 親の育ちサポートかがわ
TEL: 087-891-2465（香川大学医学部衛生学：鈴木）
E-mail: oyasapo_kagawa@yahoo.co.jp

【プログラムの日程】

毎週 1 回、合計 8 回のプログラムで、内容は下記のとおりです。

セッション	内 容	ワーク形式	時 間
第 1 回 10/1 (火)	「前向きな子育て」とはどのような子育てなのかについて学び、子どもの行動の捉え方について話し合います。	講 義 グループワーク ロールプレイ	10:00 ～ 12:00
第 2 回 10/8 (火)	子どもと良好な関係をつくり、子どもの発達を促すための、10 のスキルを学びます。		
第 3 回 10/15 (火)	対処が難しい子どもの行動をうまく扱えるようになるための、7 つのスキルを学びます。		
第 4 回 10/22 (火)	対処が難しい子どもの行動が起こりやすい場面を想定し、その行動が起こらないように備えるための計画的な活動を学びます。		
第 5 回 ～ 第 7 回	先のセッションで学んだスキルをご家庭でうまく活用できているかを話し合い、お母様ご自身が工夫しながら子育てしていけるようサポートします。	ご自宅での 電話相談	毎回 20 分 程度
第 8 回 11/19 (火)	子どもの行動の好ましい変化について話し合い、プログラムで学んだスキルの復習を行います。	講 義 グループワーク 全体のまとめ	10:00 ～ 12:00

第 5 回～7 回は個別の電話相談になります。

参加者様のご都合のよい日時にファシリテーターがお電話をかけ、ご家庭での子育てについて応じます。

ひと足先にプログラムに参加されたお母様方の感想です！

~~~~~  
 魔の 2 歳児に振り回される日々で、何かを変えたくて受講してみました。子育てにテクニックがあるということ、問題の対応策など分かりやすい手順で学びました。

この受講を通して、私自身が様々な「気づき」をいただけたことが本当によかったです。 (30 歳代母親)

3 人の子育てをしてきて、3 人共性格も気質も違うので、どう接していいのか。上の子には通じたのに下の子には通じない等、子育てへの自信を失くしていました。でも、トリプル P の技術に従い、試みているうちに、自分たちのその時々の対応の仕方によって、おもしろいように子どもが変わってきました。

私たち親がこのような技術を知ることで、子ども達もストレスなくスムーズに育ってくれるのではないかと思います。また、親としても迷いが少なくなりました。このトリプル P の技術・テクニックは一生の宝になったと思います。 (30 歳代母親)

~~~~~

NPO 法人 親の育ちサポートかがわの HP で、「トリプル P 受講者の声」や「トリプル P とは」を読むと参考になりますのでどうぞ！

「前向き子育てプログラム」 フォローアップのお知らせ

みなさま、お元気ですか？

トリプルP（前向き子育てプログラム）を受講してから、いかがお過ごしでしょうか。

久しぶりに会うトリプルP受講者も、初めて会うトリプルP受講者も、もう一度一緒に子育てを振り返りつつ、楽しくおしゃべりをし、みんなの奮闘ぶりを聞きながら、エネルギーチャージしましょう。

お会いできるのを楽しみにしています！

- 日 程：12/14（土）10：00-12：00
- 場 所：三木町防災センター2階（三木町役場となり）
- 参加費：無料
- 駐車場：無料
- 託 児：500円/人、5名程度（託児の保険はないのでご了承下さい。
また、人数に限りがありますので、できるだけ家庭での託児をお願いします）
- お申込み・お問合せ：香川大学医学部・鈴木 087-891-2465
E-mail：oyasapo_kagawa@yahoo.co.jp

12/6（金）までに出欠席について上記までご連絡ください。

NPO 法人 トリプル P ジャパン 主催



グループ Triple P ファシリテーター養成講座

■Triple P (Positive Parenting Program 「前向き子育てプログラム」)

子どもの行動・感情・発達の問題の予防・改善を目的とした子育て・家庭支援プログラム

子どもの発達や行動について、日常の家庭生活で使える具体的な技術が、前向きな子育ての実践に役立ち、親の自信につながります。30年以上の研究に基づき、国際的に高い評価を得ているプログラムです。豪・米・英・独など世界 25ヶ国で使用されており、2006年より日本でも展開が始まっています。

ファシリテーター養成講座参加者募集!!

本講座は、12歳までのお子さんをお持ちの保護者を対象とした、グループ形式のワークショップを実施するためファシリテーター養成講座です。3日間で、Triple P の基本原理から実践方法、グループワークの運営まで幅広く学びます。子育て・保健・福祉・心理・教育分野の専門家の方、または今後 Triple P を地域で実践していきたいという意欲をお持ちの方、是非ご参加ください！

- 日 時 2019年6月14日(金)～16日(日) 10:00～18:00
(認定試験は7月20-21日を予定しております。)
- 場 所 大阪府社会福祉会館
(大阪市中央区谷町7丁目4番15号 TEL:06-6762-5681)
- 講 師 大河内 美和 (Triple P 認定トレーナー)
- 受講料 178,600円(3日間受講料、認定試験料、テキスト代、消費税を含む)
- 定 員 20名

お申込み方法：「大阪グループ養成講座」とご明記のうえ、

①お名前(フリガナ)、②ご職業、③勤務先名・住所、④連絡先住所・電話(携帯)、⑤PCメールアドレスを明記の上、training@triplep-japan.org にメールを送信ください。

※ 申込み期限：5月10日(金)

講座についてのお問い合わせは、NPO 法人 Triple P Japan 事務局：office@triplep-japan.org、03-3777-2722 まで。

**Q 子育てプログラムって
どんなことをするのですか？**

トリプルP※(前向き子育てプログラム)を基に行います。
主に、安定した愛着を築く方法、子どもの発達を促す方法、適切なしつけの方法、生活習慣を整える方法、非認知能力(生きる力)を育てる方法などについて学びます。

ビデオ 教材ビデオをみて自分の子育てを振り返りましょう。
ここでたくさんの気づきがあります。

講義とグループワーク

グループで話し合ったり、
ロールプレイを行ったり、
具体的な子育ての方法を
学びます。



実践 家に帰って学んだことを試してみます。
次回、振り返りや相談ができます。

講師 トリプルPファシリテーターの資格を持つ大学教員、
小児科医、保健師、保育士など

※**トリプルP**とは(前向き子育てプログラム: **Positive Parenting Program**)
オーストラリアで30年前に開発され、現在25か国以上で実施されて
おり、世界で最も効果的であると科学的に実証された子育てプ
ログラムの一つです。

忙しい人にも
おススメ

ネットで子育てプログラム

NPO法人 親の育ちサポートかがわ
<https://oyasapo.wordpress.com/>



Dr. ひろみのハッピー子育てひろば

よい親子関係を築き、子どもを伸ばす方法
を連載中。教育関係や保護者の方々に大好
評いただいています。

愛着の築き方、子育て5原則、しつけの仕方、
クールダウンの仕方、やり抜く力を育てる など



Dr. ひろみ

Dr. ひろみの子育てのお悩み Q&A

日々の子育てで「あるある」なお悩みにお答えします。
子どもの性格、ゲームやルール、夫婦関係、ママのイライラ、
兄弟げんかの対処法 など

セミナー案内

都合が合えば、ぜひお越しください。
香川大学医学部やコミュニティセンターで行っています。

子育てに関する質問

ぜひ、メールください。子育ての専門家が回答します。
✉ oyasapo_kagawa@yahoo.co.jp

お問合せ

NPO法人 親の育ちサポートかがわ事務局
TEL 087-891-2465 (香川大学医学部内 鈴木/平日9:00~16:00)
✉ oyasapo_kagawa@yahoo.co.jp

**すくすく育て
さぬきっ子**

～親子の気づきと築き～



三木町 × 香川大学 健やかあすなるプロジェクト

あなたは当てはまりますか？



子育ては楽しい
こともあるけど、
つらいこともある



自分の子育てが
あっているのか
わからない



なんだかイライラ
して、子どもに
当たってしまう



そんな時、**子育てプログラム**があります

子育てプログラムに期待できること

1. 親子関係がよくなる
2. 親のストレスが減る
3. 子どもの問題行動が減る
4. いじめ、家庭内暴力、不登校、非行、子どものうつ等の予防ができる
5. 生きるために最も重要な能力=非認知能力(自制心ややり抜く力、自立心、自己肯定感)が育つ



子育てプログラム受講記録

乳児	幼児	就学後	思春期

103mm D'

子育てって、なんだらう？

子育ては「自動車教習所」に似ていると思います。教習所の先生は隣に座って、教習所内で運転のルールや技術を教えてくれます。どうすればうまくいか教え、できるまで繰り返させます。これは子育てでもまったく同じです。先生があなたで、生徒は子どもです。目標は、あなたが助手席から降りて、子どもが外の世界で自分の意思で上手に運転できるようになることです。そのために今、教習所【家庭】でルールを守ることや、自分のことは自分でできるように生活の技術を教え、公道【学校や社会】に送り出しましょう。そして、安心して助手席から降りましょう。

教習所の先生=あなた

- 子どもの隣でルールをしっかりと教える
- 自分のことは自分でできるように教える



105mm C'

子育てで大事なこと ~生きる力を育む~

生きる力を育むために大切なのは「土台」

土台がしっかりしている
安心感と信頼感がしっかりある土台
生きる力が強い

- 自分に自信が持てる
- なにごとにも挑戦できる
- 心にゆとりがある
- 人間関係を築きやすい
- ストレスから身を守りやすい

土台ができていない
安心感と信頼感が少ない土台
生きる力が弱い

- 自分はダメな人間だと思う
- 劣等感を抱く
- NOと言えない
- 失敗を恐れる
- 人と親しくなるのが怖い



公道=学校・社会

105mm B'

- 「子どもの悪いところ、ダメなところばかり気になって、叱ってばかりいる」
- 「子どもがやる気がない、すぐ諦める、反抗ばかりする」
- 「子どもがかあいく思えない!」
- 誰もが陥る子育ての悪循環。一度立ち止まって一緒に考えましょう。必ず未来が変わります。

子育ては シンプル ~今日からできる3つのこと~

安定した土台をつくるために、子どもに必要な3つのこと。

「愛してほしい!」
 「見てほしい!」「認めてほしい!」
 この3つを満たすと「安心感」と「信頼感」が生まれます。



生きる力 = 「安心感」×「信頼感」



103mm A'

これから土台を築く人も、うまく築けなかったと思う人も、今日から始めましょう。遅いことは何ともありません。

愛してほしい! 1日1つやってみよう

思いっきりハグしよう

- 「大好きだよ」と伝える
- 笑顔を見せ、優しい声を聞かせて抱きしめる

見てほしい! 1日1つやってみよう

1分間だけ手を止めて目を見て話を聴こう

- 話に耳を傾ける
- 困った時に手を差し伸べる
- できるまで、見守る

認めてほしい! 1日1つやってみよう

「こういうところがイイね」とほめよう!

- 「やったこと」を具体的に言葉にしてほめる
- ありがとう、助かるよもほめ言葉
- 結果ではなく過程を認める
- 今できなくても大丈夫。トライしたことが素晴らしい!



2019年6月12日 フリースペース開設のための情報収集

香川大学医学部で協議

参加者：宮武伸行、鈴木裕美、谷本智子（へいわこどもクリニック臨床心理士）、
山下奈緒美（元三木中スクールカウンセラー、臨床心理士）

1. はじめに

現在、三木町には校内の適応教室ポポラがあり、不登校の親の会、クロガネモチの会が月に1回土曜日に役場会議室2階で開催されている。校外のフリースクールやフリースペースは三木町にはないため、高松市内の施設・機関を利用している。親が相談できる場所は、三木町内ではスクールカウンセラーに限られるが、ゆっくり時間を取った対応ができていない。行き場のない親子が多い。

2. 現状把握の必要性

三木町役場教育総務課によると、三木町内の不登校児童数が2名とのこと。行政が把握している不登校児童の数と実際の数が異なっている可能性がある。教室に入れないが、①保健室登校またはポポラに毎日登校できる児童、②三木町外のフリースクールに毎日通学している児童、③まったく登校できない児童（欠席理由は不登校以外も含む）、④たまに①または②に登校することもあるが、できないことも多い児童など、不登校児はおおよそ4分類できる。今回つくりようとしている三木町内のフリースペースは、③の完全不登校児を対象とし、対象者を三木町内4小学校と1中学校に確認する。対象者が明確になることで、周知もしやすい。

3. 場所

駅からアクセスがよく、無料駐車場がある場所。できれば、本や遊び道具などを置いておけるような特定の部屋を確保できることが望ましい。農村改善センターはどうか。

4. 部屋とスタッフ

- (1) 保護者対応ができる相談室と有資格者（カウンセラーや元養護教諭、小児科医）
- (2) 子どもが過ごせる部屋（学生ボランティアなど。教育学部、特別支援学科、臨床心理の学生など）
- (3) 子どもが横にならなければならない部屋（保健室のような部屋）

5. 費用

臨床心理士は時給5000円×2時間＝1万円
ボランティアスタッフには交通費を実費支給

6. 今後の予定

8月中に該当保護者と懇談会を行い、どんな内容を希望するか、子どもたちはフリースペースに何を望んでいるかを話し合う。卓球やバトミントンなど体を動かせる遊びやボードゲームなどの室内遊び、絵や工作、おやつ作りなど活動内容について話し合う。必要な物品はなるべく購入せず、家にある不要なものを募集する。親との懇談会を通し、親が主体的にこのフリースペースに関わることができ、事前に顔合わせをすることで、信頼関係を築くことができ、子どもたちが来やすくなるのではないと思われる。

9月から週に1回のペースで午後2時間程度（14～16時か15～17時くらい）。子どもの反応を見ながら、増やしていくことを検討する。

7. 周知方法

チラシを作成して学校を通じて周知する。不登校児童には担任が自宅に行って配布？チラシにはスタッフの顔写真やプロフィールを入れると、安心感が増すのでは？

8. その他

フリースペースへの参加者を増やし、参加の意欲を持てるように、フリースペースへの参加が出席日数にカウントされるようにする。この場合、学校関係者の参加が必要か確認する。

(文責・鈴木)

2019年7月4日 フリースペース協議

参加者：香川大学（宮武、鈴木）、教育委員会（馬場、飯野）、学校（三木中校長、三木中教育担当大西、平井小校長）

子どもたちに多様な選択肢を与えたいという思いを共有し、学校、ポポラ、フリースペースと段階を踏んだ居場所を提供したいと、学校側も教育委員会も同じ方向を向いているように感じました。そのお手伝いを、健やかあすなろプロジェクトの資金内で、今年度はやってみるというスタンスです。

場所は、白山文化センターで、ゆくゆくは三木中の近くに場所を確保したい意向です。

最初は無理せず月1回でも、というお話でしたが、週1でスタートさせたいと話しました。開催側の人的調整もあるので、これは確定ではありません。

不登校児の教え方にも現在問題があるという話にもいたり、これは三木中校長先生も同意し、きちんと調査しましょうとおっしゃっていました。

子どもたちが、フリースペースに来れないのではという点については、三木中校長よりSSWが公用車を借りれるようにして、該当児童の家まで迎えに行くようにしてはどうかという意見も出ました。

まず、親御さんに周知し、お考えを聞きたいということについては、7/17、18に懇談会があるので、その時にちらしを用意して周知し、その会に来ていただくということになりました。8/17の土曜日を計画しています。

来年度は、三木町がこの事業を引き継いでいくのか、どのような形にするのがベストか、などは今後の検討課題となると思います。

三木町としては、不登校児、ひきこもりの問題は大きな問題でなんとかしないといけないと危機感を持っているものの、人的配置や場所の確保などクリアなくてはいけないことが多くて、今はすぐできない。とりあえず、あすなろで始めてもらえれば、ありがたいといった感じでした。

8月17日保護者とのフリースペース話し合い

参加者：香川大学（鈴木）、三木町（馬場、飯野）、保護者3名（小5男子、小4女子、中1男子の不登校児の母親）

【ぼぼらについて】

- ・三木中内のぼぼらは敷居が高くて行けない。それに代わる場所がほしい
- ・中学内にあるのも中学の雰囲気わかるし、ステップとしてあってもいい
- ・小学生はぼぼらには行きづらい

【フリースペースに望むこと】

- ・発達障害があるので、何をするか分かっている方がいい。お菓子作りとか、ゲーム遊びなど
- ・自由に好きなことをしてもいいと言われても、一人で本を読むのは嫌だと思うので、声をかけてもらって少ない人数で話したり、一緒に遊んだりできたらいい
- ・出席日数が少なくてもいける学校がある、1年の成績が悪くても挽回できる、いろいろな選択肢があることなど、子どもに情報提供してもらえると助かる
- ・子どもは人の言動に敏感で、自己肯定感が低い。好きなこともあるけど、自信がなく、不安を抱えている。居場所ができて、自信をもてるようになったらいい
- ・発達障害のため、週一で松原病院の放課後デイサービスに行っている。似たような子たちと一緒に、30分ごとに4種類の活動を行え、ほうびなどもあるので、楽しく通っている。でも小学生までなので、そこに代わる場所として期待している

【子どもがフリースペースに行くために】

- ・大人数になると怖がって行けなくなるかも
- ・誰がいるかわからないところに子どもが行けないのでは。家庭訪問をしてもらえないか？でも短時間の家庭訪問の時に、どんなことがしたいかと聞かれても、何も話せないかもしれない。
- ・他の子どもの登下校時間に重なると、家から出れなくなるので、そういう時間を避けてほしい

- ・子どもが行くと言ってくれるか、どういったら行く気になるか？中1で出席日数のことをとても気にしているので、参加が出席日数にカウントされれば、参加するかもしれない
- ・若い女の人や男の人がいてくれるといい。不登校経験者でなくても、理解があって、子どもに寄り添ってくれる人がいてほしい
- ・開催日が少ないと、その日にどうしても行かないとというプレッシャーにもなる。逆に行きづらくなるので開催日は多い方がいい（月に1回と言った行政に対して）

【周知（ちらし）について】

- ・一人は子どもが学校から持って帰り、先生から電話があつて、参加不参加をすぐ教えてくださいと急かされた。もう一人は懇談会で手渡され、もう一人は8月に入ってから養護教諭から手渡されたとのこと。行政は学校に何人分のちらしが必要か聞き、20名と言われたので渡したとのこと。
- ・ちらしが「こどものためのフリースペース」になっていて、対象がわかりづらいと私が言ったときに、担任が不登校児の保護者に一人一人説明しながら手渡すので、誤解されることはないとのことだった。実際はそういう手渡され方をしなかったことや、ちらしの内容が分かりづらかったという指摘を受けた。
- ・今後、実際に開催するときは、行政から生徒全員にちらしを配布するのはどうかという話があつたが、間違つて学校に行けている子が来ると、対象になっている不登校児が行けなくなるので、対象は明確にし、誤解を与えないちらしが必要だとの意見が出た。

【その他】

- ・家族の理解や一貫した対応ができないのがつらい。父親向けの集いがあるといい

【行政から】

- ・最初は月に1回でも始めて、ゆくゆくは毎日開催したい。
- ・将来的にはぼぼらを学外に移動させたいと思っている。
- ・子どもに実際フリースペースでどんなことがしたいかなどを保護者から聞いてもらい、意見を総務課に寄せてください

【鈴木から】

- ・今のところ、9月から週1午後（木曜日で検討）でどうか

- ・ ちらしは、対象者にのみ配布することにしたかどうか
- ・ フリースペースの名称は子どもたちと一緒に考えたい
- ・ 活動内容は基本的に子どもと話しながら、興味のあることを膨らます形でや
っていくことにし、その際、外に見学に行ったり、ゲストスピーカーを呼ぶ
ことも考えたい
- ・ 学校に行けないことで自信や自己肯定感が低くなっている。前向きな言葉か
けが重要なので、スタッフには言葉かけの研修をしてから、子どもと関わっ
てもらうようにしたい
- ・ 当初、学生ボランティアを募集すると言っていたが、長続きしないので、き
ちんと報酬を払って募りたい
- ・ 出席日数の件は、ぜひ実現させてください

8月29日三木中学校とのフリースペース話し合い

フリースペースに関する保護者会のための周知からわかったこと

- ・教育委員会は管理職に周知の依頼はしたが、該当者の定義はしなかった
- ・管理職が周知の内容がわかっているにもかかわらず、担任や教育相談担当などに情報が届いていなかった（学校によって差があった）
- ・今後も教育委員会→各学校管理職→〇〇（学校によって異なる）→保護者という伝達方法をとると、（1）時間と労力がかかるわりにアウトリーチが不確実で、（2）当事者に関わる教育現場の先生方とつながらず、フリースペースの目的が達せられない

提案

1. 教育委員会×各学校管理職

フリースペースへの参加を出席日数にカウントする、公用車を使ってSSWが子どもたちを迎えに行く、ぼぼらの代わりになる学外の施設および人材確保などのハード面を整えていくことを担当していただく

2. 香川大学×教育現場担当

フリースペースを開設し、保護者や子どもに居場所とサポートを提供するなどのソフト面を担当するフリースペース運営委員会を立ち上げる

メンバー：三木中大西先生、各小学校の養護教諭4名、スクールカウンセラーの坂東さん、藤原さん、スクールソーシャルワーカー2名、鈴木（10名）ぼぼら指導員1名追加

今後、フリースペースの周知や、日時、内容など具体的なことを協議する。

開設後も定期的にカンファレンスを行い、以下を実施する

現時点では小中連絡協議会として年3回（4月：SCのスケジュール調整目的、8月：1学期の振り返り目的、2月：新入学生の申し送りと検討目的）実施。ここに鈴木も参加する。適宜、集まりは追加する。

学校→フリースペース

保護者や子どもへのアプローチ、フリースペースへの情報提供

フリースペース→学校

参加者の様子に関する情報を提供、相談、協力依頼

9/6の校長会で以上についてお話しいただき、各校の教育相談担当者が運営委員会に参加することを許可いただけるようご依頼いただく。三木町への連絡も校長先生から一本化する。

3. 運営委員会で協議した内容やフリースペースでの活動内容は、適宜、大学が
あすなろ事業報告として教育委員会と各学校管理職にお知らせする。

2019年9月5日 第1回 三木町フリースペース運営委員会会議

参加者：佐々木先生（平井小）、小山先生（田中小）、安西先生（白山小）、武久先生（氷上小）、木下先生（三木中ポポラ）、大西先生（三木中）、鈴木（香大）

1. フリースペース設立への経緯

(1) 三木町×香川大学 健やかあすなろプロジェクト

	2018年度	2019年度
① 健診での子育て情報提供	月3回	
② 単発の子育て講演	5回（民生委員研修会、愛育会、保育所、小学校）	12/7 白山小学校予定
③ 香川大学医学部での連続子育て講座トリプルP*	9月、1月の2回	6月、10月、1月の3回予定
④ 子育てビデオの貸し出し	氷上保育所 育ちの部屋、白山小学校、香川大学医学部	香川大学医学部
⑤ 子育てリーフレットの作成	母子手帳配布、健診時、子育て講座受講時などに配布	配布継続、増版予定
⑥ トリプルPファシリテーター育成		2名養成講座受講済み
⑦ ネット依存症・睡眠・メンタルヘルスの調査		三木中学校で実施予定
⑧ 学校を通じたフィードバックや情報提供		三木中学校で実施予定
⑨ 不登校児のためのフリースペースを開設		今年度から開始予定

*トリプルP：Positive Parenting Program：前向き子育てプログラム。トリプルPはオーストラリア、クイーンズランド大学のSanders教授によって開発された認知行動療法の理論に基づいた家族への教育的介入プログラム。世界25カ国以上で実施されている、親向けの「科学的根拠に基づく」参加体験型の学習プログラム。

(2) フリースペース開設のための準備

6月12日（水）元三木中SC、病院SCから情報収集

7月4日（木）三木町教育委員会、大学、小中校長、教育相談担当との協議

8月17日（土）三木町教育委員会、大学、不登校児保護者との懇談

8月29日（木）三木中で運営委員会立ち上げの相談

9月5日(木)第1回運営委員会

9月6日(金)校長会で正式に運営委員会について説明・承認

(3) 行政と大学の間で役割分担の必要性

① 教育委員会×各学校管理職

フリースペースへの参加を出席日数にカウントする、公用車を使ってSSWが子どもたちを迎えに行く、ぽぽらの代わりになる学外の施設および人材確保などのハード面を整えていくことを担当

② 香川大学×教育現場担当(フリースペース運営委員会)

フリースペースを開設し、保護者や子どもに居場所とサポートを提供するなどのソフト面を担当

2. フリースペース運営委員会

メンバー：三木中大西先生、4小学校の養護教諭(佐々木先生、小山先生、安西先生、武久先生)、SCの坂東さん、藤原さん、SSWの木村さん、稲鬮さん、ポポラ指導員の木下先生、鈴木(11名)

以下について協議する。

(1) 日時(頻度、時間など)→10月1日より毎週火曜日13:00-15:00

(2) フリースペースの周知対象者、周知方法、チラシ作り

→チラシのたたき台は鈴木が作成。その後、メンバーで協議する。チラシは、メンバーが対象者だと思ふ保護者に配布すると同時に、学年だよりでお知らせとして周知。チラシは三木町役場やサンサン館みき、文化交流プラザ、三木町内小児科などで配布、三木町の会報誌に掲載(開始してから白山文化センターの写真等も追加)を依頼し、一般町民に広く存在を周知する。

(3) スタッフ(資格と謝金)

→週に1回のペースの間は、鈴木、お手伝いの大学生、白山文化センター職員の山本さん(若い男性)で行います。もし公用車にSSWに家を回って子どもたちを連れてきてもらえるようであれば、SSWも一緒にいてもらえるのではないかと。信頼関係のあるSSWが連れ出してくれるなら、子どもも参加しやすいし、帰るまで同席してくれるなら、参加のハードルが下がるのではないかと。親がSWに相談したいなら、学校に行ってもらえればよいので、新たにSWを雇うことは必要ない。現在あるリソースを最大限利用することで、謝金などの出費が抑えられる。

(4) 内容

① 子どものための居場所と活動について

→子どもの希望を聞きながら活動を考える。物づくり、おやつ作り、野菜などの栽培、収穫後料理など。ウェアラブルセンサーを用いた生活習慣の是正や心理アンケートを用いた精神的健康度やネット依存のアセスメントも検討する。

② 親のための居場所と相談業務について

→親が情報を得られるように書籍や不登校新聞をおく。

(5) 参加記録・日誌等について→今後検討

(6) 情報共有の方法について→今後検討

3. フリースペース

(1) 場所：白山文化センター

(2) 施設：卓球室、教室（机、椅子、本など）、和室、バスケットゴールや鉄棒などのある小さな庭

学校生活になじみにくい子のための フリースペースが出来ます！

☆フリースペースはいつ来ても、いつ帰っても、
何をしてもいい、ゆっくり安心して過ごせる場所です。
保護者の方のための情報、相談スペースもあります。

日時：10月1日(火)より毎週火曜日
13:00～15:00

場所：白山文化センター
(三木町下高岡2150-1)



対象：三木町内の小中学生・保護者

活動：やりたいことを一緒に探しましょう！



ものづくり、おやつづくり、
卓球などもできるよ



あなたが好きなこと、興味があること
について一緒にお話しましょう。

毎週火曜日
待ってるよ☺



～お問い合わせ～

香川大学医学部 鈴木裕美

Tel: 087-891-2465 (平日9時～16時)

Mail: oyasapo_kagawa@yahoo.co.jp

2019年度あすなろ文庫リスト

発達障害	図書／発達凸凹なボクの世界
	図書／発達障害の子に「ちゃんと伝わる」言葉がけ
	図書／発達障害に生まれて
	図書／発達障害 僕にはイラつく理由(ワケ)がある!
	図書／発達障害うちの子、将来どーなるのっ!?
	図書／発達障害うちの子、人づきあいだいじょーぶ!?
	図書／うちの子はADHD
	図書／ケーキの切れない非行少年たち
	図書／思春期のアスペルガー症候群
	図書／アスペルガー症候群の子どもたち(子どものこころの発達を知るシリーズ)
	図書／ADHDの子どもたち(子どものこころの発達を知るシリーズ)
	図書／自閉症くんの母、やっています
	図書／自閉症の僕が跳びはねる理由
	図書／跳びはねる思考
	図書／自閉症の僕の七転び八起き
ネット依存	図書／親子で読むケータイ依存脱出法
	図書／ネット依存・ゲーム依存がよくわかる本
	図書／ネット依存症から子どもを救う本
	図書／ネットに奪われる子どもたち
	図書／スマホ社会の落とし穴
	図書／スマホが学力を破壊する
	図書／親が知らない子どものスマホ
不登校	図書／全国不登校新聞(毎月2号発行)
	図書／学校に行きたくない君へ
	図書／死ぬんじゃねーぞ!!
	図書／学校は行かなくてもいい
	図書／#8月31日の夜に。
	図書／不登校は1日3分の働きかけで99%解決する
	図書／いじめのある世界に生きる君たちへ
子どものメンタル	図書／小学生の心がわかる本
	図書／もしも「死にたい」と言われたら
	図書／自傷・自殺する子どもたち
	図書／12階から飛び降りて一度死んだ私が伝えたいこと
	図書／不安障害の子どもたち(子どものこころの発達を知るシリーズ)
	図書／心身症の子どもたち(子どものこころの発達を知るシリーズ)
	図書／睡眠障害の子どもたち(子どものこころの発達を知るシリーズ)
	図書／性別に違和感がある子どもたち(子どものこころの発達を知るシリーズ)
	図書／非行と反抗がおさえられない子どもたち(子どものこころの発達を知るシリーズ)
	図書／摂食障害の子どもたち(子どものこころの発達を知るシリーズ)
	図書／10代のための疲れた心がラクになる本
	図書／すみっこぐらし このままでいいんです
図書／すみっこぐらし ここがおちつくんです	
虐待	図書／子どもの脳を傷つける親たち
	図書／実は危ない!その育児が子どもの脳を変形させる

子育て一般	図書／はじまりは愛着から
	図書／子どもへのまなざし（3冊セット）
	図書／抱きしめよう、わが子のぜんぶ
	図書／きょうだいコンプレックス
	図書／トリプルP 前向き子育て17の技術
HSCの子育て	図書／敏感すぎて生きづらい人の明日からラクになれる本
	図書／ひといちばい敏感な子
	図書／HSCの子育てハッピーアドバイス
	図書／敏感っ子を育てるママの不安がなくなる本
生き方	図書／ぼくに7つの習慣を教えてよ!
	図書／俺か、俺以外か。ローランドという生き方
	図書／時間革命
	図書／できないもん勝ちの法則
	図書／自己肯定感の教科書
	図書／「また会いたい」と言われるオトナ女子がしていること
	図書／あなたはそのまま愛されている
	図書／毎日をいい日にする!「感謝」のコツ
	図書／あたりまえだけどなかなかできない雑談のルール
	図書／しなくていいがまん
	図書／できる人は必ず持っている一流の気くばり力
	図書／利他
	図書／考え方
	図書／心。
図書／漫画 君たちはどう生きるか	
アンガーマネジメント	アンガーマネジメントゲーム 日本アンガーマネジ
	アンガーマネジメントSpecial 日本アンガーマネジ
	アンガーマネジメントキッズワークブック 日本アンガーマネジ
	図書／はじめての「アンガーマネジメント」実践ブック
コグトレ	図書／不器用な子どもたちへの認知作業トレーニング
	図書／1日5分!教室で使えるコグトレ
	図書／コグトレ（CD付き）
親子の絵本	絵本／ボクのせいかも…
	絵本／わたしのココロはわたしのもの
	絵本／ボクの冒険のはじまり
	絵本／お母さんどうしちゃったの…
	絵本／お母さんは静養中
	絵本／ボクのことわすれちゃったの？
	絵本／おこだでませんように
	絵本／ママのスマホになりたい
絵本／あなのあいたおけ	
支援者向け	図書／こども六法
	図書／「助けて」が言えない
	月刊新聞記事からできた本 こども 2020年1月号～2020年3月号
カードゲーム	カードゲーム キャプテン・リノ
	カードゲーム ナンジャモンジャ ミドリ
	カードゲーム バンディド
	カードゲーム ハゲタカのえじき